



岐阜県羽島市竹鼻町下城地区 ~広がる虫食い状の敷地~



景観を維持する要素

竹鼻町は、美濃路と駒塚道を結ぶ竹鼻街道沿いに位置し、かつては綿織物「美濃縞」の生産で栄え、京町家の美しい町並み が広がっていた。しかし、人口流出・高齢化等により、町家の維持が困難になり、空き地が増加し、賑わいや、町並みが失 われてつつある。その中でも、下城地区は築100年以上の町家が数多く現存しているため、下城地区を対象敷地とした。 03 提案 01 トオリニワの拡張 02 調査 | 聞き取り調査で得た成果

- 下城町は小さい頃の憧れだった。(70代女性)
- ・きれいな町並みを残したい! (40代女性)
- 格子戸は昔からの自慢! (50代男性)

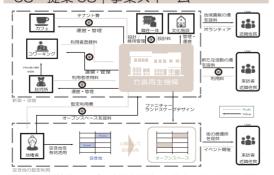
町並みに対する愛着・誇り

・昔はどの家の中のこともわかった。自分の家みたいだっ |提案 た。やっぱりトオリニワのおかげかな。(30代男性) ・どの家も玄関が空いていて、トオリニワから自由に出入

りできた。(60代男性) トオリニワが人々の交流の場所であった。 田家に住む人々を対象に聞き取り調査を行ったところ、「町並 トオリニワを領域的・重層的に拡張する。オモテからウラまで みに対する愛着・誇り」があり、「トオリニワが人々の交流の 半公共空間である滞留的な土間が連なり、必要に応じて奥まで 場所」であったことがわかった。 パブリック空間を引き込み、町全体に賑わいを創出する。

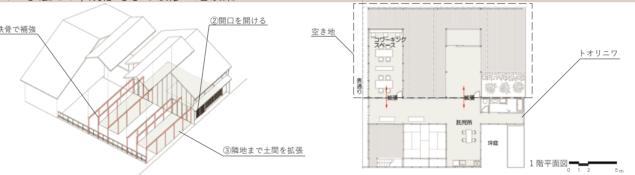
現在 表通り 提案 軒を再生

表通り 空き地の増加により軒の連続性が失われ、町並みが失われた。空 空き地を一括管理する「竹鼻再生機構」を設立する。収益を得ら 並みを再生する。



き地の表通り沿いに屋根を架けることで軒の連続性をつくり、町 れるプログラムを挿入し、継続して町を維持できるようなスキー ムを計画する。

O4 手法 O1 | 既存町家の改修・増改築



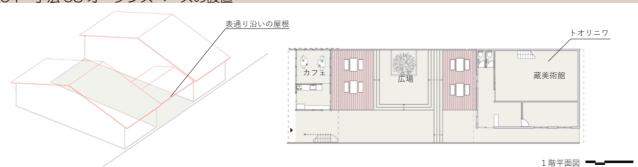
隣の空き地を活用したトオリニワの拡張。町家は、両隣の町家と壁を共有しているため、隣が空き地になると、間口が狭いため家が傾いてしまう。隣の 空き地に鉄骨フレームを設置し、側面の壁を補強し、短辺方向の強度を確保する。側面の壁が構造的に自由になるため、開口を開けることで、トオリニ ワを拡張する。

O4 手法 O2 | 竹鼻型現代町家の新築



短辺方向に鉄骨ブレースを挿入し、短辺方向の強度を確保する。長辺方向にH型鋼を挿入することで梁せいを抑え、小屋組みを失くし、3 階建てとする。職住一体を想定し、ウラまで続くトオリニワを通す。職住一体の住宅であり、ミセ部分を働く空間とする。奥に行くにつれ、プライベートな空間となっているが、必要に応じて、奥までパブリックな空間を引き込むことができる。

04 手法 03 オープンスペースの設置



表通り沿いに屋根を架けることで軒の連続性を確保し、景観を再生する。かつては、町家が密集しており、屋外のパブリックスペースが少なかった。空き地になったことをポジティブに捉え、地域住民だけではなく、観光客などの地域外から来る人々のためオープンスペースを設置し、町全体の価値を向





